

## 現代サッカーにおけるゴールキーパーに要求される役割と技術

平嶋 裕輔<sup>\*1</sup>, 内藤 清志<sup>\*1</sup>, 坂本 慶子<sup>\*1</sup>, 中山 雅雄<sup>\*2</sup>, 浅井 武<sup>\*2</sup>

### Required roles and techniques for goalkeepers in the modern football

Yusuke HIRASHIMA<sup>\*1</sup>, Kiyoshi NAITO, Keiko SAKAMOTO,

Masao NAKAYAMA and Takeshi ASAI

<sup>\*1</sup> University of Tsukuba, Graduate School of Comprehensive Human Sciences. Doctoral Program in Coaching Science  
Tennodai, 1-1-1, Tsukuba, Ibaraki, Japan, 305-8577

The purpose of this research is to clarify the required roles and techniques of goalkeepers in top-level games by analyzing their plays in 2010 FIFA World Cup South Africa. In addition, this research attempt to provide evidence that would help coaching in football. In conclusion, goalkeepers' major play appeared to be "Attacking". They make positive efforts to support their teammates. The other data verify that goalkeepers should have techniques that field players possess. This is because that they play a role in successful offensive play in a match. That is to say, goalkeepers are ought to have the same training as field players do.

**Key Words** : Game Analysis, Goalkeeper

### 1. 緒 言

サッカーにおけるゴールキーパー(以下 GK)は、競技規則でも定められているように、サッカー競技において欠かすことの出来ない存在であり、唯一ボールを手で扱うことが許されている非常に特殊なポジションである。

GK という名称からも分かるように、最も重要な役割は「ゴールを守る」ことである。ディフェンダーがいくら優秀であっても、GK が役割を確実にこなすことが出来なければゴールを守ることは出来ない。しかし近年では、チームの最終守備者としての役割だけでなく、ボールを捕った時点で守から攻に切り替わるサッカーの競技特性から、攻撃の起点となる最初の攻撃者としての役割も求められるようになり、攻守において重要なポジションであるといえる。

現在指導法について、サッカーだけでなく様々なスポーツや、教育等において一貫指導の必要性が報告されている。サッカーにおいては小野が長期的視野に立ったサッカー選手の育成を唱え<sup>(2)</sup>、「完成期においていかに大きく成長するかを第一の目的とする」、「目先の勝負に目を奪われて将来の大きな成長を阻害してはならない」とし、一貫指導の必要性を訴えている。つまり将来の優れた選手を育てるためにはトップレベルでの活躍を見据えて、育成年代で何をトレーニングするか考える必要があり、そのためにはまず、完成期でどのようなパフォーマンスが選手に求められているのかを把握することが重要である。

現在まで、GK の試合中のプレーについていくつか研究が行われているが、分析した試合数が少ない、分析項目が詳細でない、統計的な処理が不十分など研究として十分ではなく、「よりよい結果を求めるには、より多くのデータが必要である」とされている<sup>(3)</sup>。

よって本研究では、トップレベルの試合における GK のプレー内容を分析・検討することにより、現代サ

<sup>\*1</sup> 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 (〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1)

<sup>\*2</sup> 筑波大学 体育系 (〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1)

E-mail: s1230482@u.tsukuba.ac.jp

サッカーにおけるトップレベルの試合での GK の主要なプレー，技術を明らかにし，長期的な視野に立った一貫指導において，現代サッカーでトップレベルの GK に求められている役割，技術は何か，その要求に答えた GK を育成するためには，どのようなトレーニングを構築していく必要があるのかを明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究方法

### 2・1 対象

2010 FIFA World Cup South Africa に出場した 32 チーム，全 64 試合を対象とした。

### 2・2 分析方法

衛星中継にて放送された試合を DVD に記録し，その映像を用いて GK のプレーシーンを全て観察し，私案の記録用紙に記入した。

### 2・3 分析項目

#### 2・3・1 プレーの出現回数

GK のプレーは「シュートストップ」，「ブレイクアウェイ」，「クロスボールへの対応」，「コーナーキックへの対応」，「フリーキックへの対応」，「スローインへの対応」，「ペナルティ・キック」の守備プレー7項目と，「サポート」，「サポート後のディストリビューション」，「ディストリビューション」，「セットプレーからのディストリビューション」の攻撃プレー4項目に分類し分析を行った。

#### 2・3・2 プレーで用いた技術の使用回数

GK の技術は「キャッチング」，「パンチング&ディフレクティング」，「ダイビング」，「パントキック&ドロップキック」，「スローイング」の GK 専門技術 5 項目と，「プレスキック」，「フットパス」，「コントロール」のフィールドプレーヤ（以下 FP）と共通の技術 3 項目に分類し分析を行った。

### 2・4 統計処理

2 群間における比較は  $\chi^2$  検定を用い，有意水準 5% として行った。なお，全ての統計処理には IBM SPSS Statistics ver. 21 を用いた。

## 3. 結 果

### 3・1 プレーの出現回数

全 64 試合における GK の全プレー数は 6724 回であり，1 試合当たり，1 チームの GK 平均プレー回数は 52.5 回だった（図 1）。更にプレーを守備と攻撃に分類すると攻撃がプレー全体の 7 割以上を占めており，統計的な有意差も認められた ( $p < 0.05$ )。（図 2）

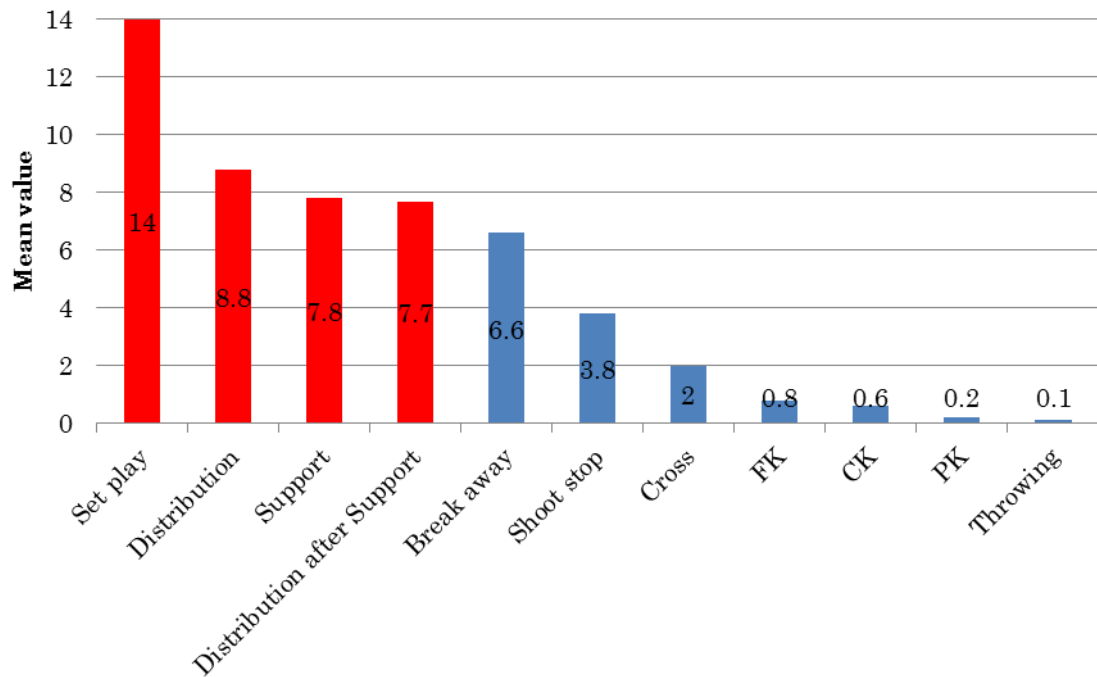


Figure 1. Average number of play times per game

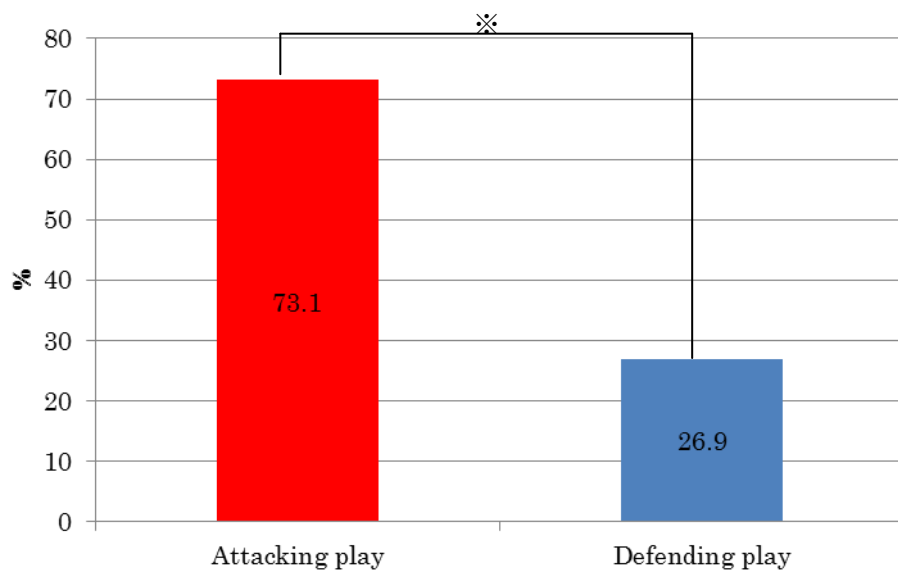


Figure 2. Percentage comparison of attacking and defending

※ $p < 0.05$

### 3・2 技術の使用回数

全 64 試合における GK の全技術使用回数は 6367 回であり、1 試合当たり、1 チームの GK 平均技術使用回数は 47.5 回だった (図 3)。更に技術を GK 専門技術と FP 共通技術に分類すると FP 共通技術が技術全体の 7 割以上を占めており、統計的な有意差も認められた( $p < 0.05$ )。 (図 2)

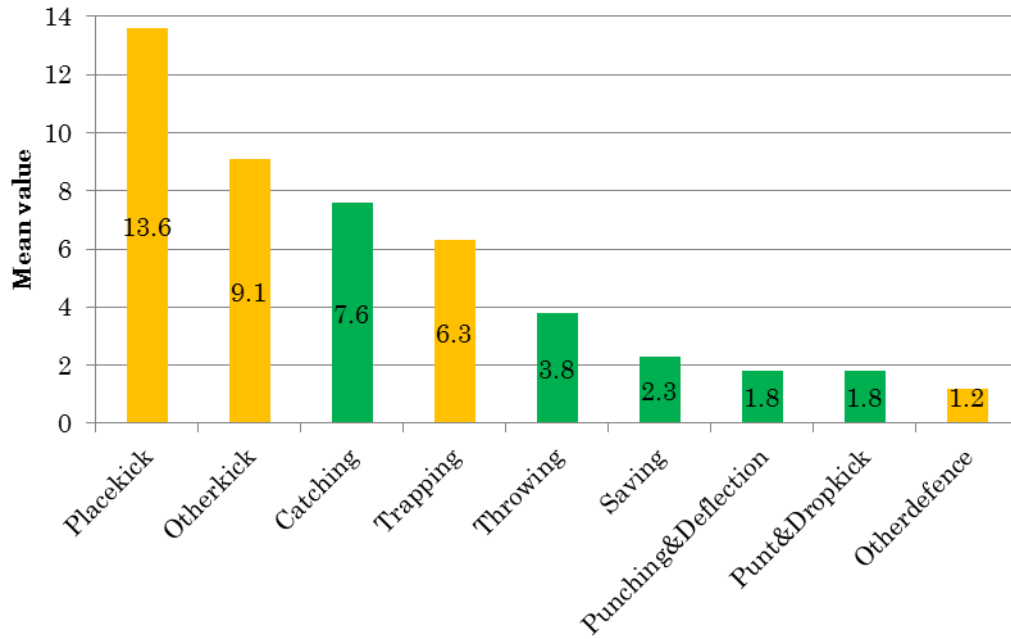


Figure 3. Average number of skill performed per game

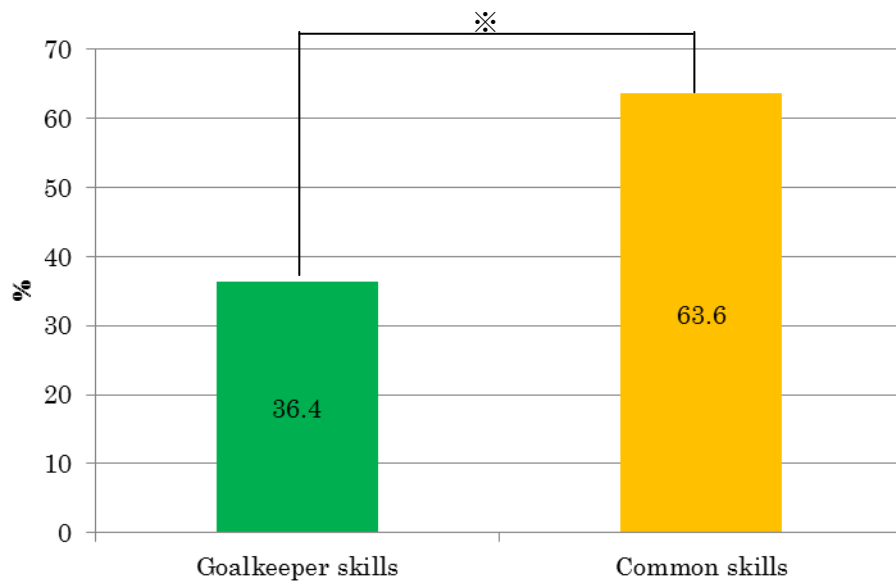


Figure 4. Percentage comparison of goalkeeper skills and Common skills

※ $p < .05$

#### 4. 考 察

GK という名称のように、主な役割はゴールを守ることと考えられがちである。小島は「ゴールキーパーが1試合の中でボールに触れる時間はせいぜい数分くらい。89分間はポジショニングとコーチング、つまり守備をするための時間に費やすことになる」としている<sup>(4)</sup>。しかし本研究の結果では、実際にボールに係わるプレー出現回数において、トップレベルのGKのプレーは7割以上が攻撃であった。また、全プレーの3割以上を占めるサポート、サポート後のディストリビューションは、ゴールキーパーが唯一意図的に攻撃に

参加することの出来るプレーであり、現代サッカーではトップレベルの GK の役割として、ゴールを守るだけでなく、DF よりもプレッシャーを受けにくい GK の積極的な攻撃参加が求められているといえる。

技術の使用回数は、その 6 割以上が手を使わない FP と共通の技術であった。これは全プレーの 6 割以上をセットプレー、サポート、サポート後のディストリビューションが占めていること、またパントキックやドロップキックのような一度ボールを手で保持し、時間をかけて蹴るキックよりも、スローイングや手を使わないキックなど、時間をかけず FP と同様な攻撃への関わり方をしているためだと考えられる。GK のトレーニングとして、特に育成年代においては、FP と同様のトレーニングを行うことの必要性が言われている。その理由として、ゴールデンエイジと呼ばれる小学生以下の年代において、サッカー選手としての基本を身につけさせるためとされているが、GK への具体的な必要性は示されていない。しかし本研究の結果、GK においても、FP と共通の技術が備わっている必要があることが明らかになり、以前から言われていたように GK の専門性を高めるトレーニングだけでなく、FP としての技術を高めるトレーニングも積極的に行っていく必要があるといえる。

## 7. 結 語

本研究では、現代サッカーにおけるトップレベルの GK に求められる役割、技術をゲーム分析によって明らかにすることを目的とした。その結果、トップレベルの試合における GK プレーの 7 割以上が攻撃プレーであり、使用する技術の 6 割以上が FP と共通の技術であった。

本研究の結果から、トップレベルの GK には守備だけでなく、攻撃への関わりも求められており、また技術においても GK の専門技術だけでなく、FP と共通の技術も必要であることが分かった。つまり GK の一貫指導においては、GK の専門的トレーニングだけでなく、FP と共通のトレーニングを行っていく必要がある。

今回の研究では GK がボールに係わったプレーに関してのみの分析であり、ボールに係わらないプレーに踏み込むことができなかったが、本研究の結果が広く指導の現場で理解され、長期的視野に立った一貫指導において、GK 育成の一助となることを願っている。

## 8. 文 献

- (1) 財団法人日本サッカー協会技術委員会 (2007). 『サッカー指導教本 2007 ゴールキーパー編』 財団法人日本サッカー協会
- (2) 小野剛 (1998). 『クリエイティブサッカー・コーチング』 大修館書店.
- (3) 掛水隆, “サッカーにおけるゴールキーパーのプレーについて”, 東京電機大学総合文化研究, Vol. 1 (2003), pp. 103-106.
- (4) 小島伸幸 (2013). 『GK の優劣はボールに触れない 89 分間で決まる』 株式会社カンゼン